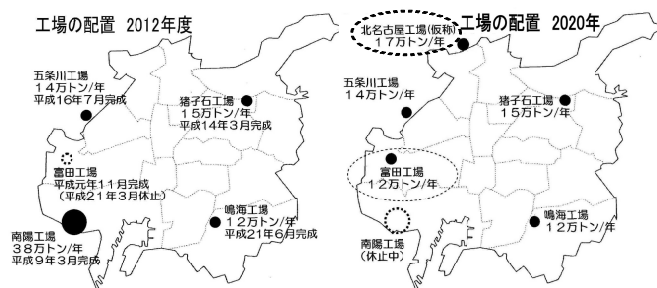


総務環境委員会（10月19日） 田口一登議員

名古屋市の焼却工場のシステム ごみ減量と工場の更新で今後の方向を示す

南陽工場の休止までの対策

10月19日の総務環境委員会で、名古屋市のごみ焼却工場の処理システムについて、検討委員会が取りまとめた結果の報告がありました。



名古屋市のゴミ処理の現状と計画

工場	処理能力			備考
	2011	2012	2020年度	
北名古屋工場			17万 t /年	2020年北名古屋市に設置。北名古屋市と豊山町分含む
富田工場		-	12万 t /年	2011年休止、2020年に設備更新
南陽工場	38万 t /年		-	2020年休止、規模縮小し2025年再稼働
猪子石工場		15万 t /年		2002年完成、2025年休止、設備更新
五条川工場		14万 t /年		2004年あま市に設置。あま市と清須市分含む
鳴海工場		12万 t /年		2009年完成
計	79万 t /年		70万 t /年	処理量2011年67万 t、2020年の目標54万 t

処理量54万tと能力70万tの差は、拡大生産者責任の法律ができない場合などのリスク対応に4万t、あま市、清須市、北名古屋市、豊山町分が5万t、季節変動の予備能力10%で計69万tになるため。

この中で、かつては100万tをこえていた焼却ゴミが、市民のごみ減量活動の成果もあり、昨年度は67万tにまで減少、2020年には54万tにする目標を持っていることがしめされ、その処理のための工場が老朽化で更新する必要があること、とくに巨大な南陽工場の更新に向け、規模縮小と分散化をどうするかを検討がされてきました。

北名古屋工場の処理システムは3方式から選定

現在、南陽工場の休止までに、北名古屋工場(仮称)及び富田工場の稼働が計画されています。今回はその処理システム等についての整備計画などが廃棄物処理システム検討委員会の報告として示されました。

検討委員会は北名古屋工場の処理システムを検討するため、システム情報や実際の維持管理状況について、処理システムメーカーや自治体などにアンケート調査を実施し、評価検討を総合評価して ①ストーカ式燃焼方式+灰資源化 ②流動床式燃焼方式+灰資源化 ③シャフト炉式ガス化溶融方式の3方式に大きな差はないとの報告を行いました。

富田工場はストーカ式燃焼方式

富田工場の再稼働は、「既存建屋を再利用するためにはストーカ式がいい」との報告がありました。

報告の中で整備運営の手法として、北名古屋工場

は「民間活力の導入を含めた幅広い検討」、富田工場は「既存工場の経験を生かした手法の検討」が示されました。

田口議員は「回答辞退などが多い結果から競争が事実上なくなってしまうのではないか」「富田工場は直営でやっていくということでもいいのか」とただし、「災害時対応を考えると直営を残すべき」と指摘しました。



北名古屋工場の処理システムに関するアンケートの調査結果

方式	燃焼方式		燃焼方式+灰溶融		ガス化溶融方式			
	ストーカ式	流動床式	ストーカ式+灰溶融	流動床式+灰溶融	シャフト炉式	流動床式	キルン式	ガス改質式
処理システムメーカー								
配置可能	2	1	2	0	1	0	0	0
・配置不可能 ・大型炉対応不可能 ・事業撤退 ・新規営業停止	1	1	1	2	0	2	1	0
回答辞退	6	2	6	1	1	3	0	1
調査会回答数 計	9	4	9	3	2	5	1	1
同規模の処理をしている自治体	3	2	3	2	2	2	2	1